

2017年
2月刊行

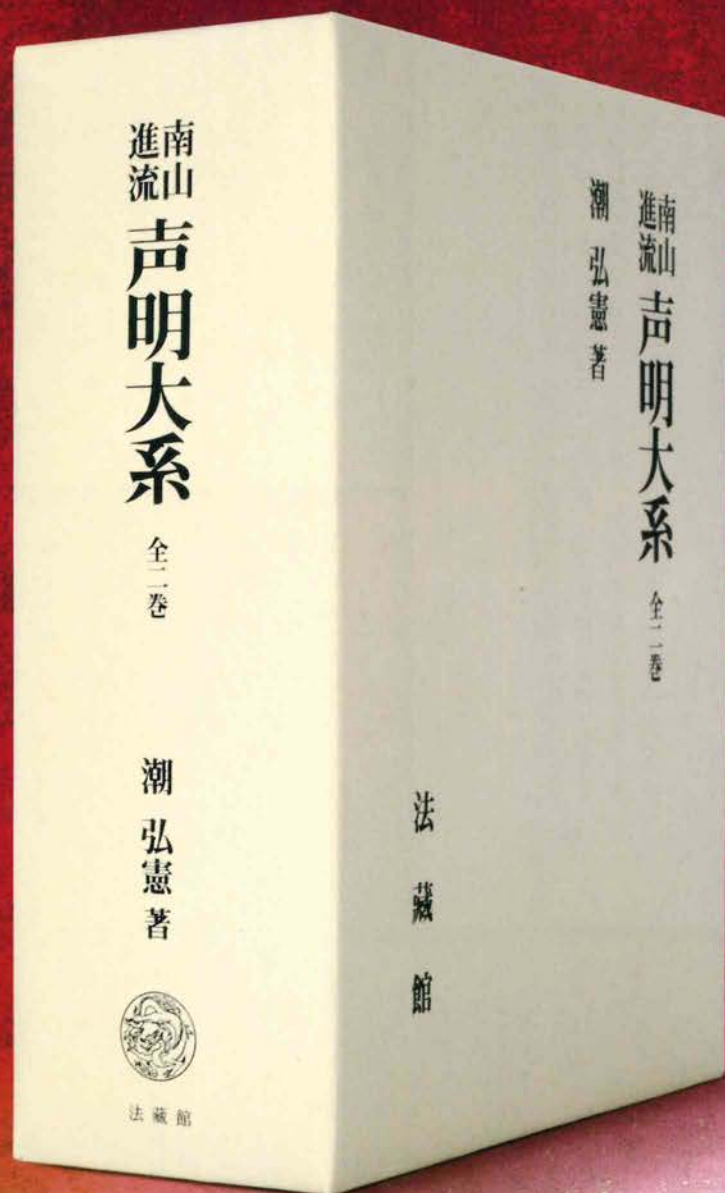
南山 進流 声明大系

全二卷

潮弘憲
著

A5判・上製函入・総一二〇〇頁・本体二八、〇〇〇円＋税

ISBN978-4-8318-6229-7 C3015 Y28000E

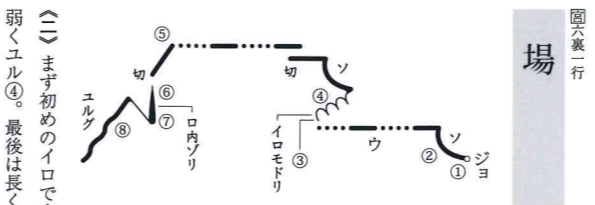


法藏館

南山進流の声明を 法会ごとに網羅し、 その歴史と実際の 唱え方を 明快に解説

〔49〕長恵 長祿二年（大永四年）（四五八―五二四・室町時代）
『密宗声明系譜』には、字は智生房、武州の人で、明王院忠義之資であり、明応五年（四九〇）に『魚山薑芥集』二巻を編集、後世の『魚山薑芥集』の底本となる。永正十四年（二五二七）、再校する。明年冬に無量寿院に移住し、大永四年（二五二四）十一月二日、六十七歳で遷化されたこと記されている。
『高野春秋』巻二（大日仏全三二・二五八頁）の大永三年（二五三三）十二月十三日の條に、「朝盛師檢校に補す。（朝盛字正賢房、明王院主）執行代長恵（智生房、二階堂）」と、遷化の前年の大永三年に執行代に補任されている。
『密教大辞典』、『声明事典』、大山大淳『仏教音楽と声明』、中川善教『南山進流声明概説』（『仏教学論集』）、吉田寛如『詳解魚山集』解説篇のすべてにおいて、長恵が醍醐清浄光院に住し、鎌倉・二階堂の別当として任ぜられ、後に高野山に通れ一院を建立されたが、当時の人はもとの任地の名で、清浄光院または二階堂と称したと述べられている。
しかし、醍醐に長年にわたり住し、残る『魚山薑芥集』を編輯し、多くの『密宗声明系譜』によると、「清浄光二階堂の別当に任ず。建久二年、世を又二階堂とす。此より一字に兩名を存日海彼の寺を高祖院に撰合して此より一四六頁）にも同文がある。これらの記

別当に任ぜられていたとされている。の住所にちなみ清浄光院あるいは二階七年（一六〇二）には高祖院と併合し、棲したのが建久二年とされている。長恵ではないこととなる。
『諸院家析負頼』四（統真全三四・二二）相州雪下にて二階堂有り。下醍なり」とあり、高野山に通れたとは述創建したと記されている。『紀伊統風』本尊とす。故に高祖院という。慶長年、光院ともいふ」と同意が述べられてい祖院の條にも覚雄に関する同文があり唄をよくし、魚山薑芥集を著し専ら世したがって、醍醐清浄光院に住し鎌彼が建久二年（一九二）に高野山に長恵がこの寺に住し、声明の興隆に尽る。
『鎌倉院寺事典』によると、「二階堂



角をユルのは散華のみである。本来、律曲・呂曲ともに、角はユルことはない。ところが、この「場」の角の博士はユル。この「場」は曲中反で盤渉調律曲に反音しているが、一越調律曲で点譜されている故である。したがって、盤渉調律曲に博士を直すとして、一越調の⑧は盤渉調の⑧に該当する。徵は本来ユルことになっているので、楽理にかなうことになる。
【声明類聚】の頭注に「律の角は呂の徵の位に当る」と注されているのは、「呂の角は律の徵に当る」の誤りである。
【ソリ】
声のソリ。初めの声①を前の「道」より低く出し、②の部分でなめらかに声をソリ上げる。
声のソリとは、声の高低のソリ。力のソリとは、強弱のソリ。
【イロモドリ】
二伝ある。
① まず初めのイロで声をため、アタツテ直前の角より半音高く③を出す。後のイロも同音に唱える。
② まず初めのイロで声をため、アタツテ太く強く高く出す③。後のイロは初めと同じ高さであるが、前よりは弱くユル④。最後は長くモタズに前と同じ歩幅で終わる。

別当に任ぜられていたとされている。の住所にちなみ清浄光院あるいは二階七年（一六〇二）には高祖院と併合し、棲したのが建久二年とされている。長恵ではないこととなる。
『諸院家析負頼』四（統真全三四・二二）相州雪下にて二階堂有り。下醍なり」とあり、高野山に通れたとは述創建したと記されている。『紀伊統風』本尊とす。故に高祖院という。慶長年、光院ともいふ」と同意が述べられてい祖院の條にも覚雄に関する同文があり唄をよくし、魚山薑芥集を著し専ら世したがって、醍醐清浄光院に住し鎌彼が建久二年（一九二）に高野山に長恵がこの寺に住し、声明の興隆に尽る。
『鎌倉院寺事典』によると、「二階堂

【組見本】

本文は変更する場合があります

洋楽音名	十二律	横笛	(二越調)	場	(盤渉調)
イ	鐘	夕	三	角	角
ロ	黄	上	三	商	商
ハ	鐘	五	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上	三	宮	宮
レ	鐘	上	三	反	反
ラ	鐘	上	三	羽	羽
ニ	鐘	上	三	反	反
ハ	鐘	上	三	角	角
ロ	鐘	上	三	商	商
ハ	鐘	上	三	宮	宮
ニ	鐘	上	三	反	反
ホ	鐘	上	三	羽	羽
ヘ	鐘	上	三	反	反
ト	鐘	上	三	角	角
チ	鐘	上	三	商	商
リ	鐘	上			

歌うがごとく、説くがごとく

大本山中山寺長老
種智院大学理事長・学長
村主 康瑞

痒い所に手が届くことは、そうそうあるものではない。やたらに難解な言葉や言い回しを使った書籍は、世の中に溢れている、そこが知りたかった、そこが人には聞けなかった、といったことが本書には明快に示されている。まさしく、痒い所に手を差し伸べてくれる。それは、他の書ではあまり触れられなかった声明が数多く述べられているばかりではない。全編を通じて非常に論理的で読みやすく、心を豊かにさせる妙を感じさせる。

よく声明は歌え、経は説けと言われたが、師の声明は歌うだけではなく説いていると思える。かつて私が尻座に就き教えを乞うた時、非常にわかりやすく説いていただいた。今も心に染みている。本書を手に入れた方は、そこかしこに師の思いを感じられるであろう。ぜひ座右の書の一つとされることをお勧めしたい。

新義・古義必携の大著

真言宗豊山派宝玉院住職
真言宗豊山派法会儀則委員会委員
上野学園大学日本音楽史研究所研究員
新井 弘順

潮僧正とは高野山大学院の同窓で、新義・古義の別はあるが、ともに種智院大学で声明を教えている。先年仁和寺で僧正の南山進流声明の一流伝授を拝受した。そのときの伝授録をもとにこの度「南山進流声明大系」が出版されることは、何よりの喜びである。

声明は、世界の音楽史上、その歴史・音楽理論・記譜法・典札法（法式）・音楽観（教理）・相伝教授法（伝授・許可・血脈）を確立し、三國伝来の声明曲を今日に師資相伝している特筆すべき宗教音楽である。本書はこのことを一流伝授という伝統的方法に基づいて公開する最初の成果である。新義・古義にかかわらず声明を学ぶものにとって必携の大著である。

希有の声明解説の集大成

真言宗御室派大門寺
仁和伝法所所長
添野 智謙

この度、潮弘憲師の長年にわたる声明研鑽の珠玉の名著「南山進流声明大系」が刊行されたことは誠に喜ばしい限りである。

師は地元淡路島は言うに及ばず、徳島・兵庫・京都の教師、そして種智院大学においても長年多くの学生を指導され、さらに善通寺・仁和寺における声明の一流伝授を開筵し、名実ともに声明の音曲阿闍梨となり、その功績が高く評価され、この度各山会より密教学芸賞を受賞なされた。本著は各法会を網羅し、その各法会ごとに歴史・内容・博士の相伝を忠実に調べ上げ、曲節に至るまで詳細に説かれる不朽の名著である。寂如の「声明略頌文」に「久習純熟すれば自ら妙を得、声字分明にして実相顕る」と述べる通り、声明は檀信徒教化の最善の方法であり、声明を志す数多の教師が当書を以て研鑽を積まれることを唯願するのみである。

【著者略歴】

潮 弘憲（うしお こうけん）
一九四七年生まれ。兵庫県淡路市室津・海福寺住職。立命館大学文学部心理学専攻卒業、高野山大学院文学研究科仏教学専攻修士課程修了。大本山大覚寺伝灯学院講師。総本山仁和寺密教学院講師。現在、種智院大学特任教授。権大僧正。二〇〇六年、密教学芸賞受賞。

【伝授・研修会】

総本山善通寺・総本山仁和寺・種智院大学では長年にわたり一流伝授。大本山中山寺・総本山泉涌寺をはじめ全国各地の真言宗支所・教区、結衆寺院、青年教師会の依頼による研究会・事相伝授・講伝など多数。

【編著書】

「理趣三昧作法解説」「褒瀧陀儀則」「保寿院流理趣三昧作法解説」「理趣三昧の解説―声明と作法―」「理趣三昧法則」「土砂加持法則」「褒瀧陀儀則の解説」「報恩院流土砂加持法則」「報恩院流土砂加持作法解説」「西院流曼荼羅供養玉」「保寿院流結縁灌頂声明集・乞戒次第」「西院流結縁灌頂声明集・乞戒次第」「結縁灌頂声明の解説」「理趣経法の解説―理趣経曼荼羅と各法流の本尊と次第―」「南山進流声明の解説」第一～三巻「南山進流声明集理趣三昧法会声明」CD「褒瀧陀儀則の声明と作法」



法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL:075-343-0458 FAX:075-371-0458
Homepage: <http://www.hozokan.co.jp>
e-mail: info@hozokan.co.jp

南山進流声明大系 全二巻

(取扱書店印)

〔 〕冊申し込めます

申込書

ご住所 〒

お名前

お電話